

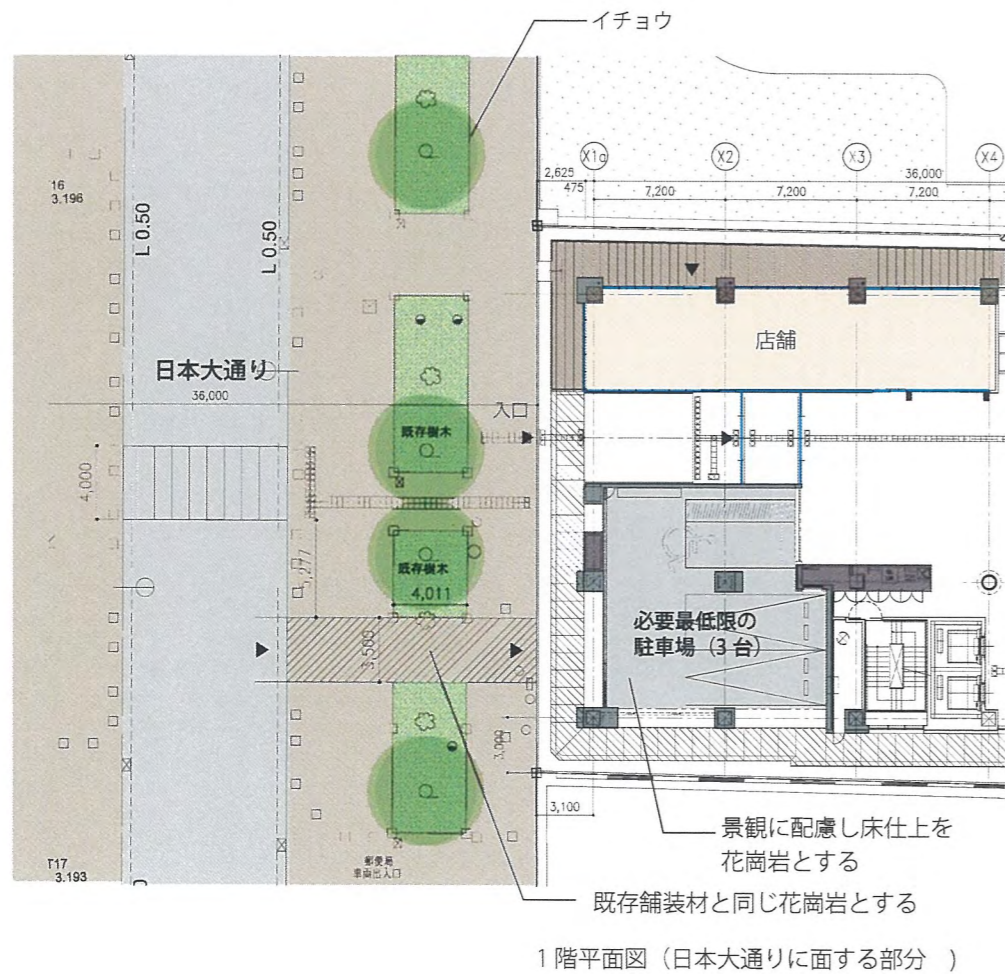
近景



1. 日本大通りの景観・周辺地域交通に配慮した駐車場計画

新築する際は駐車施設の附置義務台数が規模㎡数に応じた台数が必要になります。附置義務台数は約47台となりますが、敷地は日本大通りに面していることから、車いす利用者用1台、荷捌き2台の計3台と必要最低限に抑え、残りは別庁舎の駐車施設で確保し安全性に配慮します。

車両乗り入れ部は、日本大通りのイチョウを避けた位置とし、通行上必要最低限幅の3.5mとし、極力植栽帯を確保します。乗り入れ部の舗装は、既存の日本大通りに使われる自然石と同じ材料を用い、建築後も同じ景観を保つ計画とします。



2. 日本大通りへの賑わいを創出する店舗、テラス

日本大通りはオープンカフェが多くなってはいますが、しかし日本大通りの中で、敷地周辺部にはオープンカフェがないことから、1階にテラスを持った店舗を設置することでいまある日本大通りに賑わいの連続性を延長させます。

店舗部分はガラスで囲まれた計画とし、店舗内外が見通しの利く計画とします。またテラスを併設することでより一層の人の賑わいを創出します。



分庁舎店舗から見た開港資料館敷地イメージ
開港資料館の庭園と店舗、屋外テラスで一体となり、空間の連続性を持たせる



昼間の日本大通り側イメージ



夜間の日本大通り側イメージ



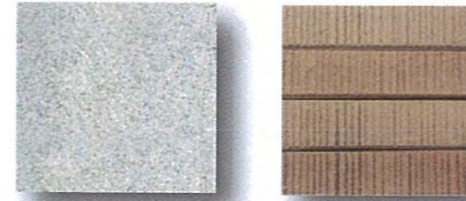
周辺の飲食店舗、オープンカフェの事例

B 4. 開港資料館との連続性をもちながら賑わいを創出するファサード



開港資料館との連続性を図るためコーニスをつけて基壇高さを統一しデザイン分節を図ります。主たる外装材は、花崗岩を用い、歩行者の行き交う低層部にブラウン系のスクラッチタイルを用いることで、歴史的景観調和を図ります。低層部でのタイルの使用は剥落への危険性の低減とともに小庇を設け、クラシカルな印象と安全性の両方を確保します。

外装材一例



本庁舎にも使われる花崗岩

スクラッチタイル

低層部は開口部を作りながらも彫の深い形状としながらイチョウ並木や開港資料館の緑が生える濃い色彩とし、アルミスパンドレルやガラスを用いて、近代的なファサードを構成します。

ウィンドウ一例



縦リブにタイルを貼った事例

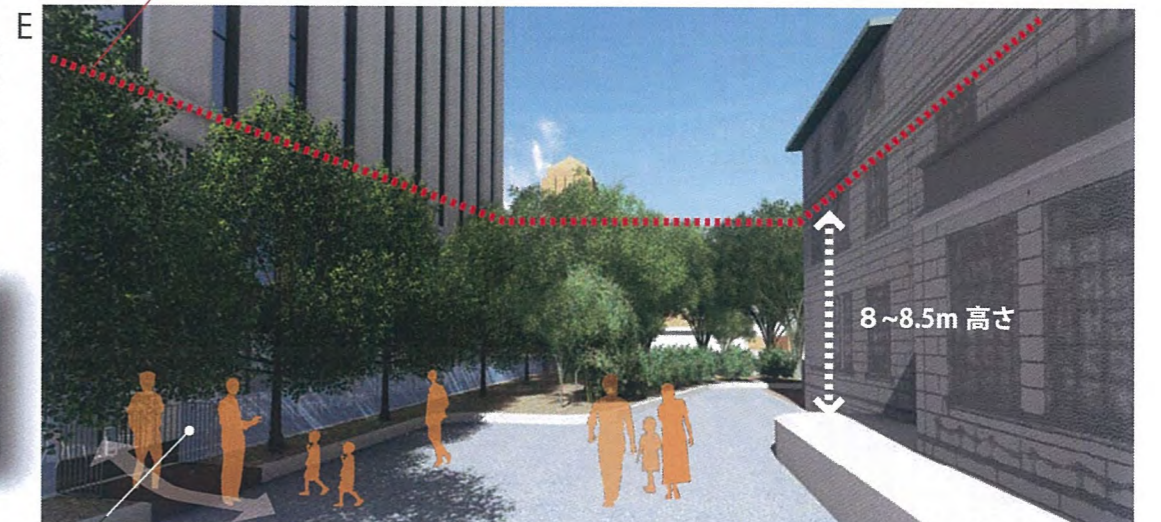
濃い色彩としながら奥行きを持たせたウィンドウ事例



基壇高さをそろえることで、日本大通りの景観調和もさながら、中庭空間としての調和を図る



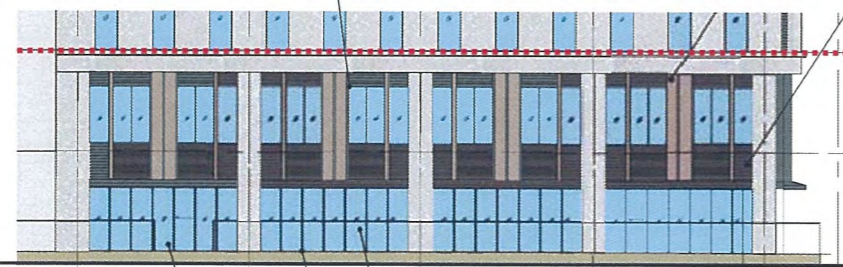
通りに店舗を面し、テラスを併設させるとともに外壁はガラスファサードとし、賑わいを創出させる。



分庁舎と開港資料館の間で動線を計画し、日本大通りから開港資料館、開港広場への通り抜けができる計画とする。

開港資料館側 低層部立面

2層部分は執務空間となるが、景観調和に配慮し2層部分まで通りの賑わいを創出するよう、開口部を持った外観とする。

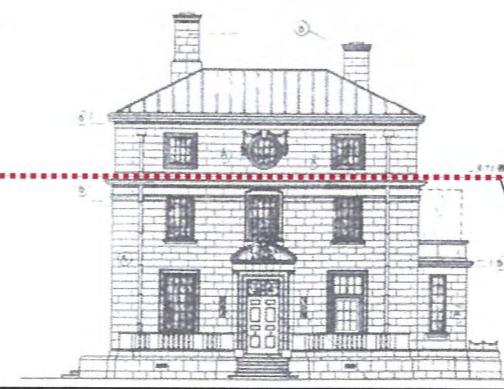


店舗部分

ガラスを用いた、賑わい創出

テラスの設置

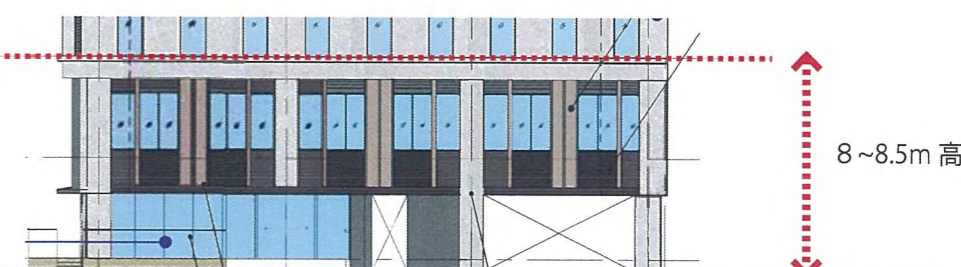
開港資料館側への出入口部



開港資料館旧館

開港資料館の基壇高さにあわせ、日本大通りとしての景観調和、分庁舎と開港資料館の間の中庭に生まれる空間調和を図る

日本大通り側 低層部立面



店舗部分

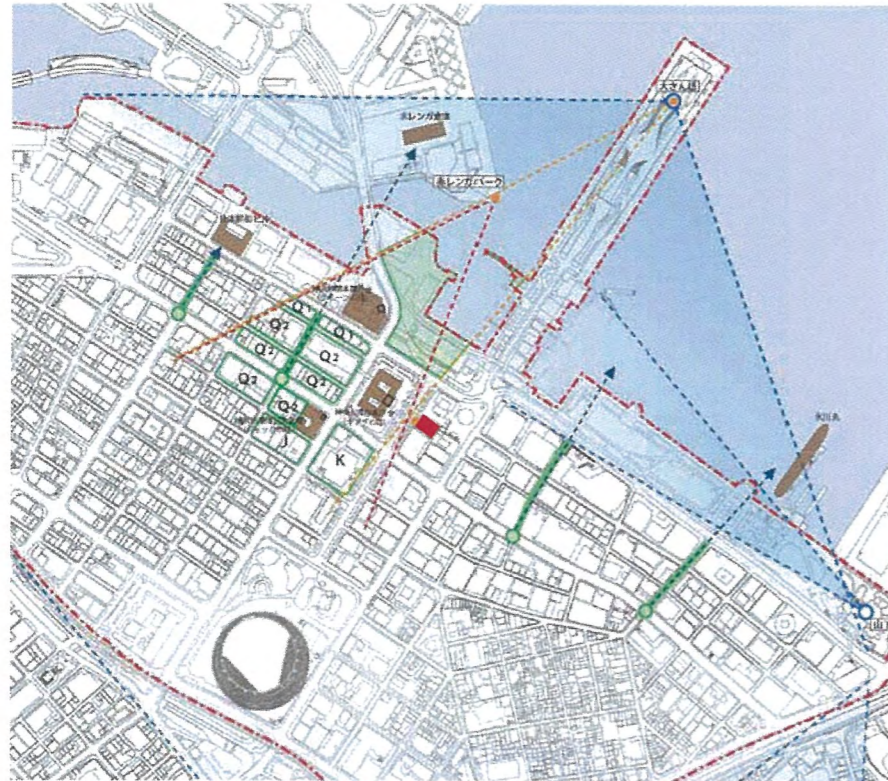
スクラッチタイル

ガラスを用いた、賑わい創出

本庁舎を意識した花崗岩の外装材

8~8.5m 高さ

眺望の視点場の創出



敷地の前面道路には横浜三塔への眺望の視点場が設けられています。分庁舎新築にあたっては、日本大通り特定地区ガイドラインに基づき壁面後退を31m、45mで行いながら屋上テラスの計画したことで、横浜三塔を一望できる場所を新たに作る事ができました。12階に設けられたレストランやテラスから横浜三塔を同時に眺められる様にガラスファサードとし、眺望の視点ポイントをつくることで、新しい意味での「景観への寄与」を行うこととします。

望見可能なランドマーク



Image © 2016 DigitalGlobe
横浜開港記念会館方面を望むとビル越しに富士山を眺めることができる



既存分庁舎の前面道路に設置されたサイン



12階のレストランからの眺望イメージ① 横浜三塔側を望む



12階のレストランからの眺望イメージ② 象の鼻地区側を望む



既存分庁舎から眺めることのできる横浜三塔

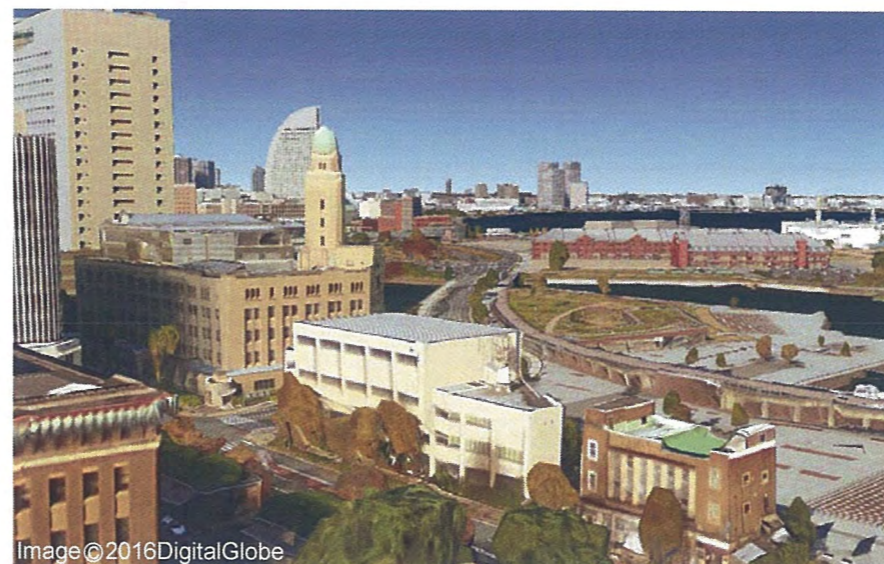


Image © 2016 DigitalGlobe
横浜税関側を望むと赤レンガ倉庫、湾岸エリアを眺めることができる



Image © 2016 DigitalGlobe
大さん橋側を望むとベイブリッジを眺めることができる

■夜間景観について

敷地周辺には神奈川県本庁舎、横浜税関、横浜開港記念会館、横浜海岸教会などの歴史的建造物があり、それぞれライトアップされて夜間景観を彩っています。また日本大通り沿いに横浜情報文化センターなどがあり、1階の店舗の内部照明が通りに暖かさや賑わいを創出しています。



海岸教会のライトアップ



横浜情報文化センター

■計画敷地前の状況及び景観特性

敷地部分は賑わいを生む要素を持った建物が無いため、比較的暗がりとなったエリアとなっています。計画するにあたっては防犯性を含めた以下の対応が必要となります。

- 歴史的界隈形成エリアとして、歴史的建造物を浮かび上がらせるライトアップを阻害しない夜間照明
- 1階低層部の店舗照明の色調や横浜情報文化センターのような温かみのある賑わい創出
- 暗がりを解消し地域防犯性への貢献



計画敷地前



開港広場側(昼間)



開港広場側(夜間)



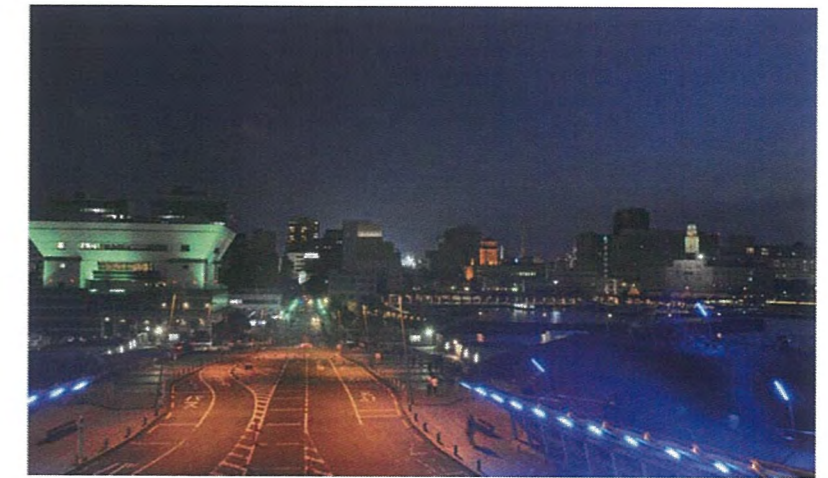
1階低層部のイメージ

落ち着いたある照明計画と眺望の視点場

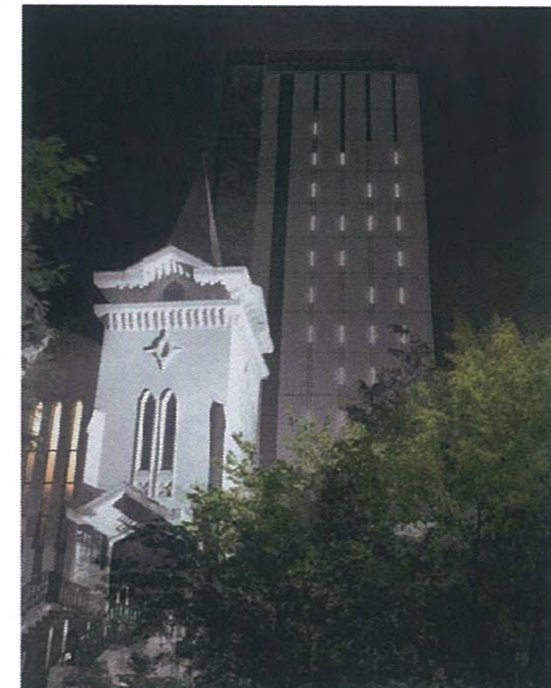
計画建物には1階に店舗12階にレストランを導入予定となっています。夜間景観を考えるにあたっては歴史的界隈形成エリアにある歴史的建造物を目立たせるように華美な外部照明を用いず、温白色の照明を用いて落ち着いたある夜間の街路景観を演出します。

1階の店舗照明は光源などが目立たないように配慮しながら開口部から漏れる光によってやさしく賑わいを演出し、同時に地域防犯にも役立つ計画とします。

12階のレストラン部は夜間も明かりが灯りますが、ライトアップされた歴史的建造物を夜間にも見ることができる眺望の視点場となります。横浜三塔をはじめ開港の歴史を伝えつなぐ場所のひとつとなります。



横浜三塔と並んだときの夜間景観

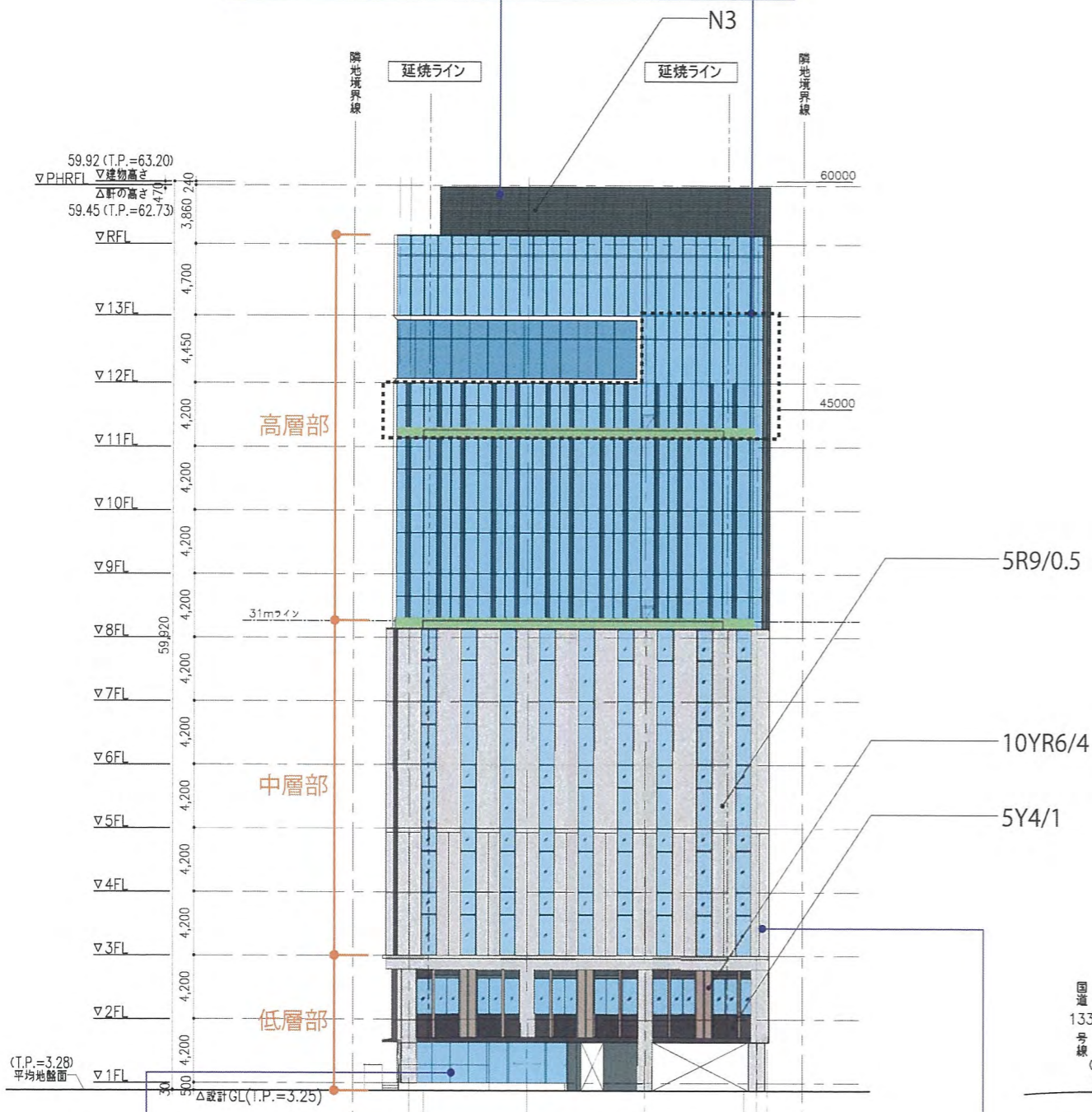


海岸教会の背景としての夜間景観



鳥瞰イメージ

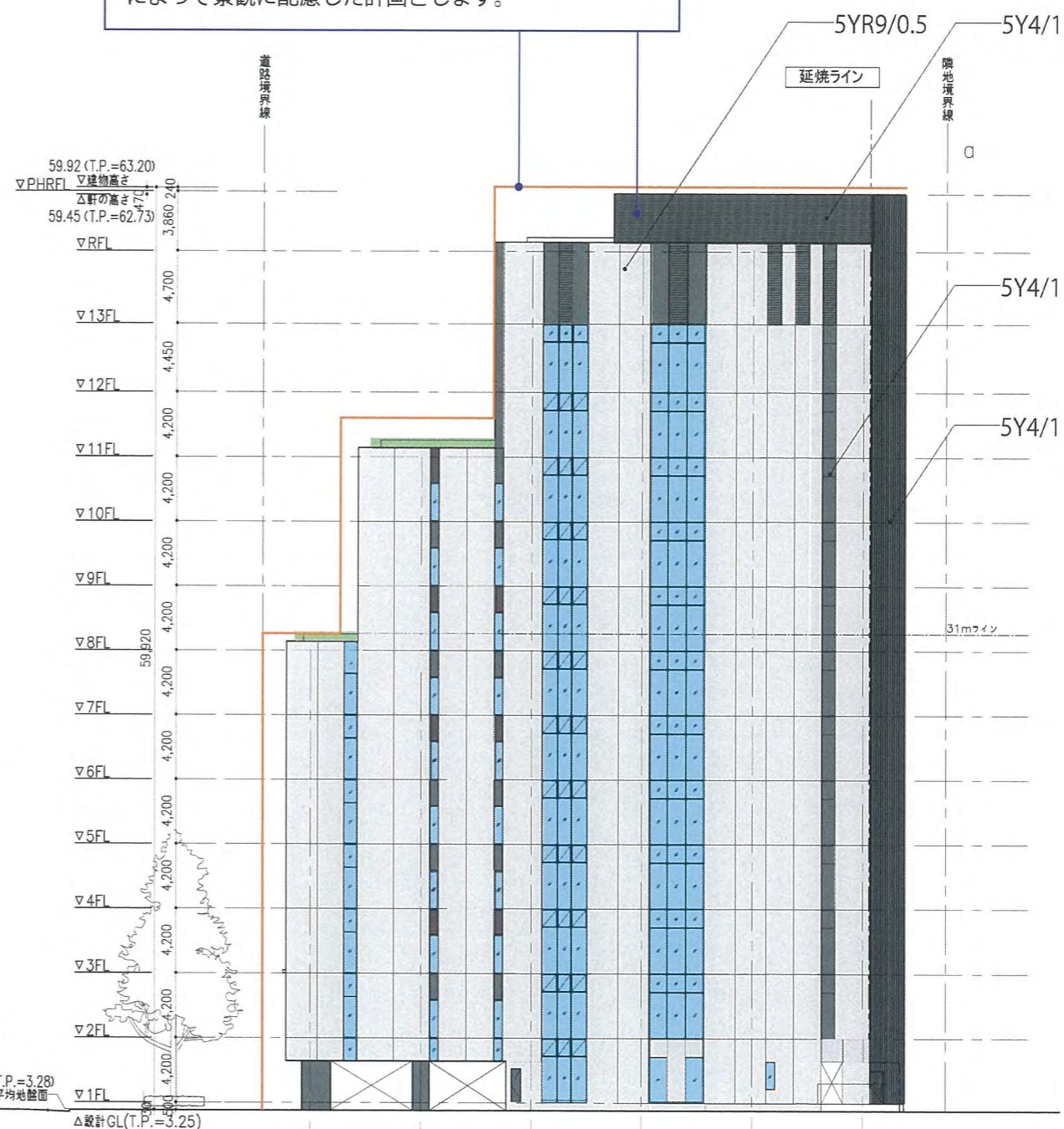
北西面の目隠しルーバー部、11階12階の縦ルーバー部には神奈川県が推奨する太陽光発電を組み込んだルーバーとします。



1階には飲食店舗を計画し、オープンテラスを設けて日本大通りに対して賑わいを創出します。飲食店舗の外壁部分は、ガラスで囲うことで透明感のある店構えを計画し、室内の様子がうかがえる形態意匠となっています。

建物の低層部ではデザインを分節化し、街並みのスケール感に配慮するとともに、タイルを用いた外観とします。中層部は歴史的な街並みに調和させるため、自然石を用いた彫りのあるデザインとしています。

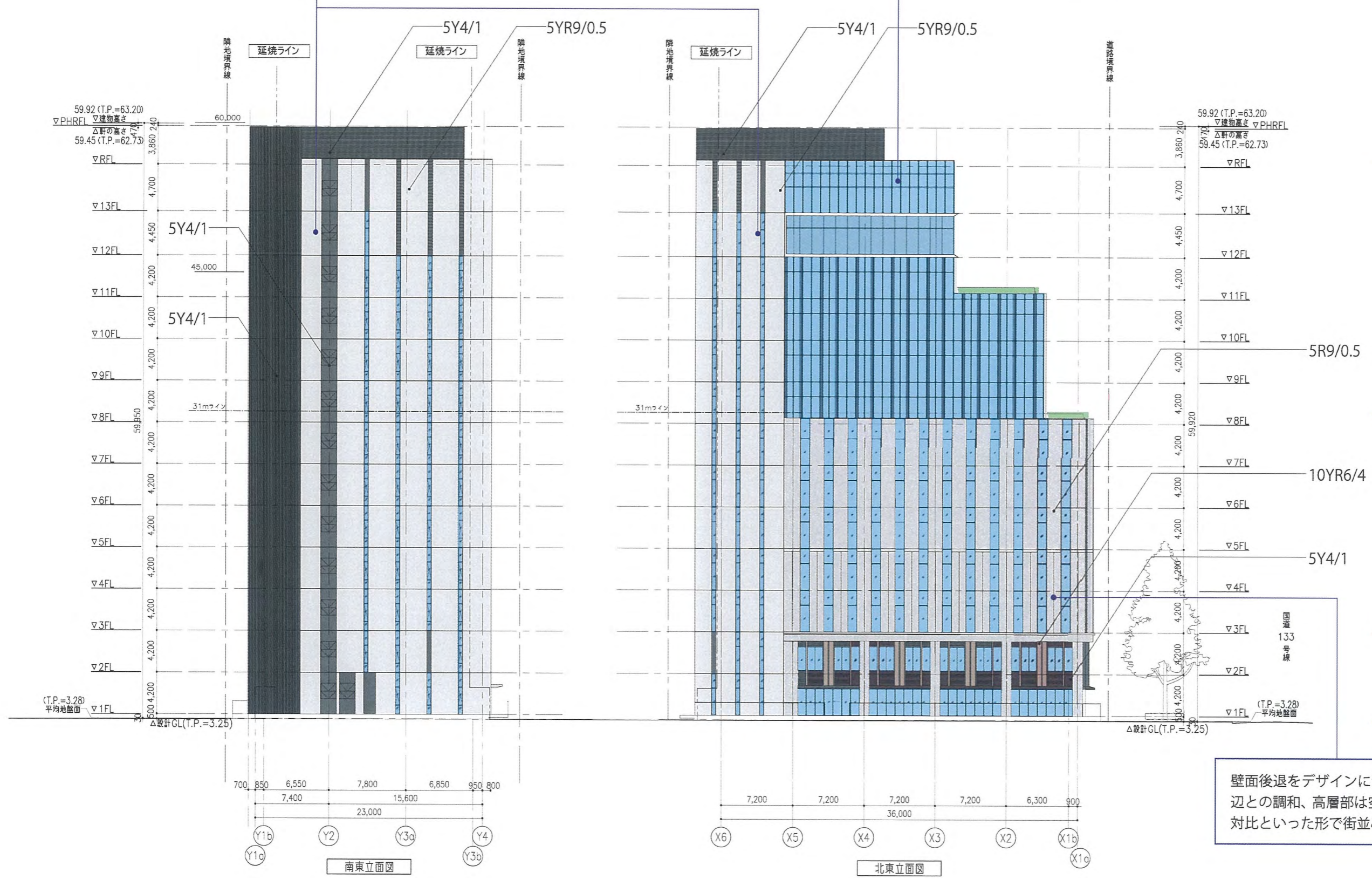
日本大通りの地区計画に定められた壁面後退を実施し、スカイラインの調和を図る計画とします。最上部には設備機器が設置されるため、目隠しルーバーによって景観に配慮した計画とします。



建物の低層部ではデザインを分節化し、街並みのスケール感に配慮するとともに、タイルを用いた外観とします。中層部は歴史的な街並みに調和させるため、自然石を用いた彫りのあるデザインとしています。

開港広場や海岸教会に面する部分は、両施設の背景となるように開口部を抑えたデザインとして周辺との調和を図ります。

上層部はルーバーのあるガラスの外観とし、空に透過していく外観デザインで眺望対象が引き立つデザインとします。



高層部
中層部
低層部

壁面後退をデザインに活かして、低層部、中層部は周辺との調和、高層部は空に透過する外観として、同調・対比といった形で街並みとの調和を図ります。